

第5回多度地区小中一貫校地域協議会 会議概要

開催日時 令和2年12月19日(土) 10:00~11:30

開催場所 多度まちづくり拠点施設 講堂

出席委員 22名中 18名

1. 開会

2. 議事

(1) 経過報告

(2) 各会の検討状況の報告

- ① 環境検討会より ② 学校施設検討会より

(3) 基本計画(案)について

委員：4-3-2の学年区分とすることは、前回までの地域協議会で確認されているため、基本計画に明記すべき。設計にも関わってくるため、来年度の検討に持ち越さない方が良いのではないかと。事業名が「多度地区小中一貫校多機能複合化事業」であるが、基本計画では多機能複合施設の内容は学校施設と一体的に記述されており、事業名からも「多機能複合化」の言葉を抜いてはどうか。「地域とつながった学校づくり」の記述について重複した内容があるので、再整理したほうが良い。

委員：4-3-2の区切りや義務教育学校については、現時点で教育現場の先生たちの議論が不十分であり、地域協議会で議論を進めるのが早かったのではないかと。基本計画(案)の内容が変わりすぎており、きちんとした学校の理念が初めにできていなかったのではないかと。国が小学校35人学級の方角性を出したことから、中学校も学級人数が減ることを視野に入れたほうが良い。

委員：教育現場では、小6と中1の接続や小学校高学年の一部教科担任制など、4-3-2の区切りにつながる取組は進めており、4-3-2の区切りとは意識していなくてもその素地は進んでいる。国が小学校の35人学級編成の方角性を出したが、普通教室の整備は、少人数教室も含めて各学年4教室整備する予定であり、対応できるのではないかと。また、前回までの意見で出ていた、「桑名の子どもたちをどのように育てていくのか」についても記述されている。

<グループワーク概要>

Aグループ

4-3-2の区切りについて、設計に影響があるということで早く決めた方がよいと思うが、現場教員の意識やモチベーションの部分では、今後さらに高めないといけない心配がある。設計面と教育の中身は連動してこそ教育効果が高まる。保護者の意見では、中学校の先生に小学校段階から授業等に関わってもらえると良いと思う。「地域とつながった学校づくり」については、重複した内容をまとめたほうが良い。

Bグループ

4-3-2の区切りについては、特に現場教員がそのシステムに最初から対応できるかどうかは疑問である。ただし、今意識していることとして、多度中小学校では高学年の一部教科担任制をとっており、複数の教員で子どもを見ることができている。小規模校でも学年をまたいでの授業交換が少しずつ始まっている。「地域とつながった学校づくり」に関しては、避難所としての機能をどのようにするのか今後の議論が必要。「多機能複合化」の事業名については、必要ないのではないか。

Cグループ

4-3-2の区切りについては、有効な手段として地域協議会での意識としてはまとまっているので、今後、保護者や教職員への理解を進める取組を早くすべき。市内では小学校と中学校の先生の人事交流も進めており、教職員の意識として小と中の壁をなくしていく必要がある。「地域とつながった学校づくり」については、重複した内容をまとめた方が良い。複合施設については、今まで議論を重ねて学童保育所と地域交流室の2つにまとまってきたので、ある程度決まった話として設計につなげてほしい。また、地域開放で利用する人にとっても使いやすいトイレとなるよう設計に反映してほしい。

委員長：この場で基本計画の変更内容に関しての具体的な協議を進める時間はないので、本日も協議いただいた皆様のご意見を踏まえて、最終修正は委員長の私に一任いただいて事務局と協議を進めたいと思いますがよろしいでしょうか。

委員一同：(異議なし)

3. 報告

- (1) 今後について
- (2) 多度地区小中一貫校に向けたパンフレット

4. その他

5. 閉会